

NEWS LETTER



NO.20 新年号 2005.1.1

発行：にほんごひろば岡本（甲山国際文科学館内）
〒658 - 0003 神戸市東灘区本山北町 3 - 2 - 10

☎078 - 453 - 5931

<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

にほんごひろば岡本

初詣で誓い新たに！

“先生、大石内蔵助の漢字が違っていました。学習者は熱心にメモしていましたよ！”

発足直後のひろばに志願参加の頃、同時に通っていた H 大留学生センターでのビジターセッション中の事だった。セッションの前半は、学習者と支援者との、適切なペアリングの準備に、全員で作業をしていた。“尊敬する人物”との設問に、小生が出した答えを、（小生の半分程の）若いコーディネーターが、黒板に書いて下さった字のことだった。何となく違和感を覚えながらも、修正出来ないまま終えた後の、支援者反省ミーティング席上での、他の支援者からの指摘だった。

養成講座で肝に銘じた筈の、「ボランティアと謂えども...」、のお教えが脳裏に浮かんた。

遙か遡って1973年頃、米出張からの帰途、日本を初訪問する、ファーストクラス搭乗の米顧客夫妻に招かれて、自席（当然エコノミー）からノコノコ出向いた駆け出しの商社マンへの、

Q：“日本で一番人気のあるリゾートはどこですか？”

A：“.....？”

リゾートという言葉すら耳慣れない、日夜全国民が貴重な外貨稼ぎに汗していた、1ドル=300円の時代、やっと思い浮かんだのは、「熱海」。果たしてリゾートといえるのか？

15年後、NY赴任に当たり、真っ先に詰め込んだ荷物は、『日本の歴史、全20数巻』と『日本詳細地図』だったことは、いまだに記憶に新しい。

「日本人の先生（支援者）から学んだ、日本（語）のことは、絶対！」、と学習者は信じている筈。

歌舞伎も、浄瑠璃も、一度は実見するぞ、との願いもいまだ果たせず、クリスマス会のスピーチ大会で、自国や自国の文化・風習について、確信をもって話してくれる、年若い学習者の前で、小さくなっている自分を、戒め、鼓舞する日々である。

（竹中興時）



BBQ & Christmas party Photo Report



昨年^{さくねん}もみなさんのおかげで、学^{がく}習^{しゅう}支^し援^{えん}のほかに色^{いろ}々^{いろ}な催^{さい}事^じを開^{ひら}くことができました。後^{こう}期^きに 行^{おこな}わ^られた行^{ぎやう}事^じを、写^{しゃ}真^{しん}を中^{ちゅう}心^{しん}に報^{ほう}告^{こく}しまし^しょう。こ^こで紹^{しょう}介^{かい}で^きな^かった写^{しゃ}真^{しん}はWEB サイ^{さい}トでもご覧^{らん}にな^られますので、^{たの}楽^{らく}し^んで^くだ^さい。

その1 第^{だい}5^{かい}回^{かい}BBQ パーティー 2004年^{ねん}10^{がつ}月^{にち}31^{にち}日^{にち}・芦^{あし}屋^や奥^{おく}池^{いけ}遊^{あそ}びの広^{ひろ}場^ば



天^{てん}気^き予^よ報^{ほう}を^きに
し^しな^なが^がら^らも当^{とう}日^{じつ}は
何^{なん}と^はか晴^はれ、総^{そう}勢^{ぜい}
76 名^なの参^{さん}加^かで、食^た
べ^べて飲^のん^ので遊^{あそ}ん^ので、
楽^{たの}しく交^{こう}流^{りゅう}で^き
ま^まし^した。特^{とく}に場^ば所^{しょ}
と^とり^りや焼^やきか^かた^たな
ど、学^{がく}習^{しゅう}者^{しゃ}が^がん^んば^ばつ^つて^てく^くれ^れま^まし^した。



その2 ステップアップ講座^{こうざ} 2004年^{ねん}10^{がつ}月^{にち}30^{にち}日^{にち}～11^{がつ}月^{にち}27^{にち}日^{にち} (計^{けい}5^{かい}回^{かい})

前^{ぜん}年^{ねん}同^{どう}様^{よう}、2004 年^{ねん}も 10 月^{がつ} 30 日^{にち}か^から 11 月^{がつ} 27 日^{にち}の毎^{まい}土^ど曜^{よう}日^{にち} (全^{ぜん} 5 回^{かい}) 京^{きやう}都^と民^{みん}際^{さい}日^{にち}本^{ほん}語^ご学^{がく}校^{がく}の岡^{おか}田^た裕^よ子^こ先^{せん}生^{せい}と神^{かん}戸^こ Y^{えむ}M^かA
カ^かレ^れジ^じの西^{せい}ノ^の原^{はら}麗^{れい}子^こ先^{せん}生^{せい}を講^{こう}師^しに迎^{むか}え^えて、『み^みん^んな^なの^の日^{にち}本^{ほん}語^ご 』28 課^か～32 課^かの指^し導^{どう}につ^ついて学^{まな}び^まし^した。

「に^にほ^ほん^んご^ごひ^ひろ^ろば^ば岡^{おか}本^{ほん}」以^い外^{がい}の方^{かた}も含^ふめ^め延^のべ^べ 76 名^なの支^し援^{えん}者^{しゃ}が参^{さん}加^かしま^した。基^き本^{ぽん}に^にた^たち^ち戻^もつ^つてテ^てキ^きス^すトの『み^みん^んな^なの^の日^{にち}本^{ほん}語^ご』の構^{こう}成^{せい}の説^{せつ}明^{めい}もあ^あり^りま^まし^した。講^{こう}師^しの説^{せつ}明^{めい}のあ^あと、受^{じゆ}講^{かう}者^{しゃ}同^{どう}士^しで例^{れい}文^{ぶん}を^を作^さり^り合^あつ^つて、活^{かつ}発^{はつ}なデ^でィ^ィス^スカ^かシ^しョ^ョンが^がか^かわ^わさ^され^れま^まし^した。例^{れい}文^{ぶん}作^さ成^{せい}も^もと^とき^きど^どき^き脱^{だつ}線^{せん}し^しな^なが^がら^らの楽^{らく}しい時^{とき}間^{かん}で^でし^した。



『み^みん^んな^なの^の日^{にち}本^{ほん}語^ご』は初^{しよ}級^{きゆう}向^{かう}きのテ^てキ^きス^すトで^です^すが、同^{どう}じ^じよ^よう^うな文^{ぶん}型^{けい}であ^あつ^つても色^{いろ}々^{いろ}な状^{じやう}況^{きやう}で違^{ちが}う言^いひ^ひ方^{かた}もあ^ある^るな^など、よ^より^り深^{ふか}く考^{かんが}え^えたり^りも^もし^しま^まし^した。中^{ちゆう}級^{きゆう}者^{しゃ}にも対^{たい}応^{おう}で^でき^きる^るよ^よう^うな状^{じやう}況^{きやう}につ^ついて^ても例^{れい}文^{ぶん}を^を通^{とお}して話^わし^し合^あい、実^{じつ}の^の講^{こう}座^ざに^にな^なり^りま^まし^した。5 回^{かい}通^{とお}して^ての共^{きゆう}通^{つう}のポ^ぽイ^いン^んトは^は以^い下^かのよ^よう^うなも^もので^でし^した。

- 身^み近^{ぢか}な状^{じやう}況^{きやう}の例^{れい}文^{ぶん}を^を作^さる。
- 会^{かい}話^わ形^{けい}式^{しき}の練^{れん}習^{しゅう}も場^ば面^{めん}設^{せつ}定^{てい}を^を分^わか^かり^りや^やす^すく^くす^する (学^{がく}習^{しゅう}者^{しゃ}が場^ば面^{めん}を^を思^{おも}い^い浮^うか^かべ^べら^られる^るよ^よう^うな説^{せつ}明^{めい}が^が大^{だい}切^{せつ})
- 身^み近^{ぢか}に^にあ^ある視^し覚^{かく}的^{てき}なチ^ちラ^らシ^しな^なの^の小^{せう}道^{どう}具^ぐも積^{しゆ}極^{ごく}的^{てき}に^に使^{つか}う^うと^とい^いい。

講師のお話の中で印象に残ったひと言がありました。

「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」ことに心掛けましょう・・・

2005 年も日時等は未定ですが、ステップアップ講座を予定しています。みなさまの参加をお待ちしています。

以下、受講者の感想 2 題です。

「2004 年度ステップアップ講座を受講して」その

私は昨年 9 月にひろばに参加させていただいたばかりの新人（かなり年はくっていましたが）で、まず私自身の研修が必要と思っていたのでまさにタイミングの良い講座でした。

講義の冒頭、岡田先生が「教える前に学習者のニーズと目標(何のためにどのレベルまで)を確認しておくこと」とおっしゃいました。確かに、「日常の会話がスムーズに出来ればいい」、「新聞や書物が自由に読めるようになりたい」、さらには「検定試験合格を目指している」などなど学習者それぞれの目標によって教える範囲、レベルを確認しておくことは基本的に重要なことだと思いました。後日早速私の担当しているタンさん（ベトナム人、男性・・・すでにかなりしゃべれる）に確認したところ、検定試験合格までのレベルが希望で私がプレッシャーを感じています。

初めて受けた研修で感心させられることが多かったのですが、まず、ある言葉を理解してもらうのに、こちらから一方的に説明するのではなく、その言葉の使われる場面をたくさん設定してお互いの会話を通してその言葉の意味を学習者がイメージするという方法。

研修では学習者との会話を想定したロールプレイや文例の作成をたくさん行いました。

ロールプレイではこの言い方は出来る、いや出来ない日本語でありながら我々にも見解の異なる例も多く、あらためて日本語の複雑さを実感しました。また、迷回答、珍プレイが続出して非常になごやかで楽しい授業でした。

さらに我々が学校で習う国語教育と異なり、日本語教育用の独特の用語分類（例えば、辞書形、て形、ます形などなど）が出てきました。私にとっては初めての言葉でしたが、こういう具合に言葉の変化形を整理し纏めれば理解しやすいと言うことも知りました。さすがに「にほんごひろば岡本」の先輩諸氏、諸嬢（？）は良く知っておられて感心しました。

今、私に一番欠けているのはこのような「教えるための定石」的な知識、技術だと思いますので今後とも研修には是非参加させていただきたいと思っています。

また、反省点の一つとしては教材の『みんなの日本語』を読んだことがなかったので第 28 課～32 課以前の内容が判らずこの課を教える時点での学習者のレベルがイメージできなかったことです（次回は前もって読んでおきます）。

最後にロールプレイ中に飛び出した文例の秀作を 1 点ご紹介します。

第 29 課で「・・・してしまいました」の例文作成で私の隣の X さんが「わたしは既に遺書を書いてしまいました」これには私も思わず「それでは葬儀場も決めてしまいましたか」。そこからみんなで葬儀の形式から、料金、散骨まで話はどんどん脱線。これには先生もまいってしまいました。（宮武寿美雄）

「2004 年度ステップアップ講座を受講して」その

このような講座を受けていつも思うこと—私はかつて日本語を習ったことがない！日本語を習ったことがないものが人に日本語を教えることが果たしてできるのか？—この答えを導きださないまうやむやにしていたのですが、今回その答えがおぼろげながら見えたような気がします。



それが「はい」でも「いいえ」でもないのが私としては潔くなくて嫌なのですが、だから今までうやむやにしてきたのでしょうか.....、一言でいうと、それは人によって違うということになります。私の場合、それは限りなく「はい」に近いのですが、人によっては絶対に「いいえ」や！とおっしゃる方もあるでしょう。日本語を習いもせずに、教授法も会得せずに、人に日本語を教えられるか？「はい」という私にとって日本語とは今もって未知なる領分を抱えるワクワクするものに他ならず、その領分をつつかれたときのワクワクというかドキドキは、ウーンと頭を抱えてのた打ち回らなければならないこともしばしばなのですが、同時にそれは日本語を教える醍醐味でもあるのです。こんないい加減な私にその醍醐味を味わえる至福の時を与えて下さっているにほんごひろば岡本に感謝しています。「人によって違う」などという大それた答えを導き出せたのは、今回の講師の先生方が私たちに考えたりお互いに討論をする時間を与えて下さったからなのです。ありがとうございました。

(古瀬尚子)

その3 年忘れクリスマスパーティー 2004年12月19日

2004年のクリスマス会は例年より少し早く 12月19日に開かれました。

参加者は支援者、学習者やその家族や友達も含めると総勢51名の
大賑わいのパーティーになりました。パーティーは竹中サントと
宮武サブサントの登場で始まり、西村ピンクサントの開会宣言へと
続きます。前日からツリーなどで部屋を飾り、例年に劣らぬたさ
んの食べ物、飲み物、果物、何種類ものケーキなどを支援者の方々が
用意してくださいました。立食でしたが、みなさんお皿いっぱい
のご馳走を片手に楽しく懇談していました。この日が初めての支援者
や故郷を遠く離れて異国で暮らしている学習者が楽しくお話し
しているのを見ると、古瀬さんの手によって黒板に飾られていた「世界は
一つ」のイラストが実感でき、胸が熱くなりました。

歓談の最後は山口禎子さんによるケーナ(南米の楽器)の演奏、これまた感動的で、教室全体をおおらかな気持ちにしてくださいました。続いて、恒例になりつつある学習者によるスピーチ大会です。今回は4人の参加でした。



日本と中国の文化の交流に努めたいと心強い言葉で閉めく
ってくれました。

まず、韓国出身の金 智秀さん。現在神戸の真珠の会社に就職している彼女のスピーチはずばり「真珠」です。スピーチの最中にも真珠に関するパンフレットや貝の見本などを回して、とても力のこもったものでした。色々な真珠があり、TPOに合わせてもっと女性の身を飾って欲しいとのことでした。特に男性に勉強してくださいと、女性陣にとってはありがたい話もありましたよ。

次に中国出身の沈 連俊さん。彼のスピーチは「日本語の特徴」です。敬語の使い方など日常の失敗談もまじえて、日本語をもっと勉強して、





つぎはベトナム出身のラムくんです。彼のスピーチは「ベトナムのクリスマス」でした。ベトナムは雪が降らないので、クリスマスの雰囲気を出すために白い紙を細かくして、それを撒くそうです。たくさんの人の前で話すのは初めてなのに、とてもりっぱなスピーチでしたよ。

つぎもベトナム出身のヴィンさんです。彼の話は「ぼくって日本人……？」でした。日本人と間違えられ、おばあさんに道をたずねられた時のことなど楽しく話してくださいました。

最後のスピーチは韓国出身の鄭仙京さん。 「国際結婚」というテーマで、日本人のご主人の家族との楽しい交流や韓国の家族との思い出



いなど私たちには推し量れない心のうちを話してくれました。

飛び入りのスピーチもありました。現在ニュージーランドに移住して、日本人の留学の世話や現地の人に日本語支援をされている額田さんです。彼は、4人のスピーチを聞いて感動され、「言葉は国境を越えられないかもしれないけど、心は越えられる」と言葉を残してくれました。

今回のクリスマス会はたくさんのゲームを楽しみました。伝言ゲーム、箸渡しゲーム、チャンバラゲーム、いす取りゲームととても盛り上がりしました。各ゲームともチームプレーで一番得点数の低かったチームは楽しい罰ゲーム（二人羽織）が待っていました。写真をたくさん載せましたので、笑ってください。

最後にパーティーの顛末を一つ。学習者の出身国歌のCDを準備していたのですが、CDプレーヤーの調子が悪く、各国の学習者にアカペラで歌っていただきました。オリンピックでも曲だけなのに歌まで聞けて、最高でした。

チャンバラゲーム→



女性陣のいす取りゲーム。→
竹中サンタさんの応援にも力が入っています

←男性陣のいす取りゲームは
壮絶です。結果はいかに？





ばつ ゲーム は 日本 の 伝統
げいのう に にんばあり みな
芸能・二人羽織です。皆さん
うまくバナナを食べられま
したか？



みんなのひろば

前号でご紹介しました嶋内さんから、ひろばにクリスマス便りが届きました。嶋内さんの身にもいろいろなことがあったようです。今号にも彼のアドレスを記しますので、便りを返してあげてください。

12月号

皆様 お元気でしょうか。

日本は例年になく、たくさんの台風が通過し、新潟他で地震も相次ぎ、かなりの被害があったようです。このクリスマスには、インドネシア沖の地震による津波で数万人の死者が出たとのこと。自然災害の脅威を、改めて感じた一年でもあったように思います。

私は、といいますと、マニラでの生活が8カ月を過ぎ、現在、海外長期滞在記録を更新中。日々、全てを楽しんでいますが、ホームページの更新も、この「マニラ便り」もご無沙汰してしまっていて、約3カ月ぶり、のようです。ホームページは更新できていません……。休みの日は、友達や生徒とショッピングに行ったり、映画を観たり、カラオケに行ったり、と、エンジョイしていて、更新できていないのもあるのですが……。仕事はあれこれと、相変わらず多忙の毎日を送っています。

クリスマス・お正月は、どんな風に過ごされましたか？今回、初めての海外でのクリスマス＆新年なので、フィリピンのクリスマスを楽しもう、と思っていましたが、そうもいきませんでした。理由はあとで……。

それに、こちらの新年は1日のみ休みなので、お正月という雰囲気はなさそうです。

30日31日には、カウントダウンのイベントが色々あるようですが……。

通常二日から、いつも通り会社も学校も始まるらしいです。今年はこよみ上、3日からですが。休日は、24日25日(クリスマス)と30日31日そして1月1日で、それ以外はOffice Dayです。つまり、出勤日ということです……。一般の学校は12月中旬から休みに入っていますが、新年は1月3日(今年は)からだそうです。我がラーニングセンターは、30日までクラスがありますが……。 (激悲)

何が忙しいのか、あっという間に月日が過ぎていきますね。毎回同じことを書いているような気もしますが……。 (笑)

新しく日本語コースを始めたい、という話がいろいろあるのですが、なかなか進展しない、というのが実情です。我がラーニングセンターでも、もちろんコースを開けているのですが、うちのトップは教師を派遣して、マニラのあちらこちらで日本語コースをオープンしようと考えています。企業であったり、学校であったりするわけですが、自前で教室を各地にかまえるのはコストが掛り過ぎますからね。で、提携を結んで、教師を派遣するというわけです。場所は先方持ちでね。そういったところへの、プレゼンテーションや資料作りなども、私の仕事に含まれているわけです。

大学教授？

春から話を進めていたある大学で、いよいよ11月から日本語コースがオープンしました。フィリピンの大学もほとんど2学期制で、その後期のみの開講なのですが、単位には関係のない特別コースです。当初、アレンジのみで私が教授担当する予定ではなかったのですが、色々あって、私が担

当することになりました。週に一度だけですが、Professor と呼ばれています。(爆)

日本語能力試験

12月5日(日)には、年に一度の『日本語能力試験』というものが行われ、私が教えた生徒も受験しました。結果は3月にならないと解らないのですが、感触を聞いてみても、合格していることを願っている。といった返事しか返ってきません。ギリギリの時間で最低限の内容しか教えられていないので不安ですが、『サクラサク』という吉報を待ちたいと思います。

Bicol (ビコール)

来年1月からは、マニラのあるルソン島の最南端 Bicol (ビコール) 地方で、地方政府の元で日本語コースを設けるという計画も決まっています。私に行きたくて欲しいという依頼を受けています。私には新しい経験なので行きたいのですが、このコースは1年契約で、私個人の契約が4月までなので、その調整さえできれば、ビコールに行きたいと思います。

入院・手術

クリスマス前には、メールをしなくては、、、と思っていたんですが、12月に入り来年度の準備などで、バタバタしているうちに半月が過ぎ、新しいクラスがオープンしたので、これまたバタバタしていると、何だかお腹の調子が…。痛みがある…。

去年、肝炎を患った時のように、胃が圧迫されているような痛み。これはヤバイ。痛かったり、治まったり、だったのが、3日くらいして、ホントに痛くてたまらなくなり、20日(月)に病院へ連れていってもらいました。検査の結果、『すぐに手術が必要』と言われてしまいました。言葉が不十分なので、説明にも困るし、外国で手術というのに、とても不安を感じた瞬間でした。日本に帰るのは可能か、と聞いたのですが、『保証できない』と、言われてしまいました。

病名は、胆石。もう数年前から石があるのは知らされていたし、石が動いたり、動いたことによって炎症を起こしたりすると、激痛を伴うというのでも聞かされていました。しかし、まさか今それが起こっているとは、すぐには信じられなかったんです。しかし、事実なので受け入れるしかなく、胆石による痛みは、すぐに処置が必要、というのでも聞いていましたから、選択の余地はないと思い、即刻、手術を承諾しました。その後、心電図やレントゲンなどの検査をし、そのまま即、入院しました。

手術は翌日午後に決まり、手術をはさんで、入院してから丸3日間、激痛と闘いました。これほどの痛みがあるのか、というくらい痛くて、ツライ3日間でした。日本の医療体制と違い、手術をしてもだいたい4～5日で退院するようで、私も4泊5日の入院でした。結局、一度も病院食を食べませんでした。(笑)ずっと絶食でしたし、食べてもいいという許可をもらったと同時に退院してもいい、と退院許可も出たんです。その午後に退院するように準備していたんですが、柔らかなものから、と医者に言われているのに、昼ごはんの病院食は普通の食事に来るんです。日本のように、重湯なんて出ないんです。(爆) 食べられない。っつーの。(悲)で、その退院した日が、クリスマスイブ24日でした。

本当なら、友達と街に繰り出して、クリスマスを楽しむはずが……。自宅療養の始まりの日になりました。(悲)日々、痛みは和らぎ、回復に向かっている最中です。

本厄・後厄

本厄の年には肝炎で40日入院、後厄の今年は、最後の最後に胆石で入院手術。厄年に重なったのも、何かの因果かも知れませんが、2005年以降はきっと良いことがあると願っています。いつもポジティブな嶋内は、『おめでたい』のでしょうか？(爆)



写真は介護の学校の日本語クラス最終日のものです。

2005年が良い年でありますように！

A Happy New Year!

嶋内 拝

嶋内 悟さんの連絡先

Email : satoru1201@kcc.zaq.ne.jp

URL : http://www.kcc.zaq.ne.jp/shima_s-cafe/

■お知らせ■

昨年 11 月 28 日に「佐古田幹子作品展」が芦屋の「ギャラリー藤」で開かれました。

幹子さんの 1 周忌にあたるものとして彼女が遺した絵や版画、写真の一部がご家族の方によって公開されたものです。日本語ボランティアの仲間としてお付き合いをさせて頂いた私にとって、それは「未知なる幹子さん」との出会いの場であり、新鮮な驚きの連続でした。

純粋で豊かな感性に溢れた数々の作品は、幹子さんを失った悲しみをあらためて感じさせるものでした。と同時に「私はいつもここにいるわよ」と語りかけられているような気がしました。まだまだ多くの作品があり、今年も 11 月に作品展を予定されていると聞いています。また「新しい幹子さん」に会えると、今から楽しみにしています。

絵画や版画・デッサン・写真を詩とともに収めた素敵な作品集を作られて、その売上金を幹子さんが関わっていた日本語ボランティアのグループに寄付して下さるとのお話を伺っておりました。12 月 19 日、クリスマスパーティーで賑わっていた頃、ご主人佐古田三郎氏が「にほんごひろば岡本」に 30 万円のご寄付と、ご夫婦の思い出の地ニューヨーク・セントラルパークの写真をそっと届けてくださいました。

どうすればそのお志を生かせるか、皆さんとともに考えたいと思っております。

静かな佇まいの写真は、ひろばで私たちを見守り、励ましてくれるものになるでしょう。

幹子さん！躓き、迷い、くじけそうになった時、私はあなたに語り続けたいのです。いつまでもよろしくね！（西村佳子）



CONTENTS

レポートいろいろ

BBQ パーティー.....2 ステップアップ講座.....2

年忘れ・クリスマスパーティー.....4

みんなのひろば 嶋内さんのマニラ便り.....6

お知らせ.....8



〔編集後記〕

昨年^{せんねん}は本当^{ほんとう}にいろんな悲^{かな}しいことが世界^{せかい}中で起^おきました。台風^{たいふう}による甚大^{じんたい}な被害^{ひがい}・中越地震^{ちゅうえつじしん}・スマトラ沖巨大地震^{おききょだいじしん}等々。折りしも 1 月 17 日は震災^{しんさい} 10 年^{ねん}です。この新年号^{しんねんごう}は巻頭^{かんと}ページと 8 ページに写真^{しゃしん}（広島原爆記念公園^{ひろしまげんぱくきねんこうえん}の原爆ドーム^{げんぱくどうむ}と同公園内^{どうこうえんない}にある韓国人犠牲者^{かんこくじんぎせいしゃ}の慰霊碑^{いれいひ}）を配^{はい}しました。世界中^{せかいじゅう}がみんな^{みな}で助けあ^{たす}い困難^{こんなん}を乗り越えていけたらとの思いでいっぱいです。2 ページのカリグラフィーは坂本蕎子^{さかもとぎょうこ}さんに作^{つく}っていただきました。これからも皆さん^{みな}に助け^{たす}ていただきながら楽しい誌面^{しめん}づくりをしていきますので、ご協力^{きょうりょく}よろしくお願^{ねが}いします。（I・M）